

落ち葉 de FES GOGO

香川県高松市 まちのデータ研究室 環境グループ

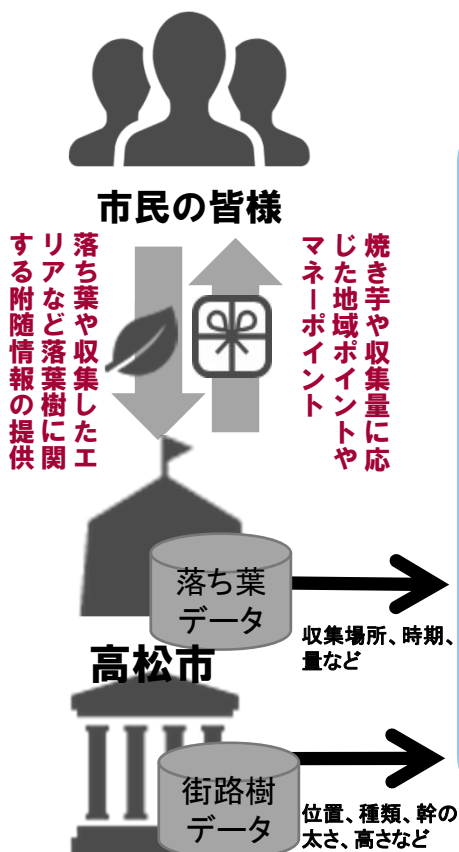
アイデアの背景

高松市では、落ち葉の収集は行政と地域住民の協力で成り立っていますが収集には地域差があり、下水道の詰まりなど衛生環境や景観維持が問題になっています。そこで市民の方に集めて貰った落ち葉を利用し、上記の課題を改善できる方法がないかと考えました。

実現させたいこと

落ち葉のエリア・量などをデータとして集め、IoT共通プラットフォーム（FIWARE）に蓄積し、オープンデータとして活用する。
焼き芋と音楽、演劇のフェスの開催や地域ポイントやマネーに還元をするなどをして市民参加型の**綺麗なまちづくり**と**地域住民の交流による地域活性化**を目指す。

データ利活用のイメージ



IoT共通プラットフォーム
FIWARE

欧州の官民連携プロジェクトで開発・実証されたオープン化データ基盤。
高松市は2018年より導入。

<活用例及び運用工夫>

公園データと組み合わせるフェス開催場所の選定

- ・安全及び設備管理の観点から焼き芋フェスの対応可能場所を検討する。
- ・アプリにデータランキング機能を設け、毎回のフェスで1番落ち葉を集めた方を賞賛することで、データ入力へのモチベーションを高め、オープンデータの充実につなげる。

落ち葉の発生時期や発生場所など落葉樹の管理

現在、高松市では街路樹に関する情報は路線ごとの本数、種類、幹の太さ（60cm以上か以下）のみで管理しているが、このデータに市民からのデータを加えることで、市民と行政の協働による植栽管理を行い、管理（剪定作業や落ち葉回収・清掃）のコストダウンを図る。例えば、高松市がデータから落ち葉の発生時期や量などを推定し、植栽管理に活用するとともに、市民に落ち葉発生情報を提供することで、市民主体の清掃活動へと促す。拾った落ち葉の量に応じて地域ポイントや腐葉土との交換ができるなどインセンティブを設け、市民の参加意欲を高める。

など

データを集める

データを貯める

データを使う